

論文要旨

所属ゼミ	小林 研究会	学籍番号	80228244	氏名	熊川 敦子
(論文題名)					
オープン戦略に関する研究 ・ 競争優位を確立する条件 ・					
(内容の要旨)					
<p>コンピュータ業界では、デファクト・スタンダードをとることは市場の優位性を確立する有効な手段である。そして、そのために自社の持つ情報など経営資源を外部に公開するというオープン戦略がとられてきた。そして、オープン戦略により共通化・標準化した外部資源を利用しさらなる自社の優位性を確立するオープン戦略も存在している。</p> <p>標準化を利用した戦略は、市場での優位性を確立する可能性を高くするが、一方で自社の差別化を困難とし、市場への参入障壁を低くする。つまり、デファクト・スタンダードとなる規格を業界に提供した企業が必ずしも優位でいられるわけではないといえる。</p> <p>本論文では、デファクト・スタンダードが有効でオープン戦略がとられている業界としてコンピュータ業界をとりあげる。事例研究では、コンピュータ業界の市場を2つの財の性質「ソフトウェア/ハードウェア」「消費財/産業財」の2軸を用いて4つのタイプの市場に分割し、環境は「新規参入者・競合企業・代替品・供給業者・顧客」の5つのプレーヤーに、企業と戦略については「経営レベル・製品技術レベル・製品販売レベル」の3つのレベルに視点をおき分析していく。各市場におけるオープン戦略をとった企業とその業界について分析していく。そして、どのようなタイミングでオープン性を強めると競争優位につながるのか、またどのようなオープン戦略が有効となるかといった、戦略の条件と、オープン戦略をとった場合に企業が抱える問題点とその限界について、考察していく。</p>					